

コウエグ語の音素目録

- ガルギダ方言 - *

乾 秀行[†]

キーワード： ナイル・サハラ、コウエグ語、ガルギダ方言、音素目録

1 はじめに

本稿は、エチオピア連邦民主共和国の最南部で話されている、ナイル・サハラ系¹の東部スーダン語群 (East Sudanic) の中のスルマ (Surma) 諸語²に属する少数民族言語コウエグ (Kowegu) 語³のガルギダ方言⁴の音素目録を

*本稿のデータは、2011年2月及び8月にエチオピア連邦民主共和国内のニャンガトム (Nyangatom) 州のコウエグ (Kowegu) 語地域のガルギダ (Galgida) 村出身のシンデ (Sinde Atabo) 氏 (調査当時18歳) をインフォーマントに現地調査したものである。インフォーマントのシンデ氏にはここに感謝の意を表したい。なお本稿は、平成22~25年度科学研究費基盤研究 (B) 「変容するエチオピア諸言語の静態と動態に関する総合的研究, ならびにデータベース構築」代表柘植洋一 (金沢大学) (課題番号 22401046) による研究成果の一部である。

[†] 山口大学人文学部

¹ エチオピアで話されるナイル・サハラ系言語は、ガンベラ周辺とジンカ周辺に分かれている。ガンベラ周辺には系統的にベルタ・コムズ系の言語が、一方ジンカ周辺にはナイロート・スルマ系の言語が存在する。

² Bender (1976)、Lewis (2009) 参照。

³ 現在コウエグ語が話されている地域は複数の集落として点在しており、それを正確に表現している地図はない。参考までに論文末に Ethnologue16th の地図を図1として載せておく。

⁴ Ethnologue16版では、“Kwegu (ISO639-3:xwg)” という名前で登録されていて、別名として Bacha、Koegu、Kwegi、Menja、Nidi が記載されている他に、方言名として Yidinich (Yidinit, Yidi)、Muguji が挙げられている。クチュル村で行われた先行研究では彼ら自身の発音に従いコエグ (Koegu) 語としている。先行研究によれば、コエグ語は元々オモ川沿いに小さな集落として点在して存在していたのであるが、周辺民族 (カロ) の圧力によりクチュル村に多くの集落出身者が集まって現在の状態になったとされる。一方今回調査したガルギダ村はそのような影響を受けなかった集落の一つであり、調査した限りでは、先行研究のデータと比べて異質な言語特徴を含んでいると思われる。そこで本稿では暫定的に村名を代表させて「ガ

提示することを目的とする。

コウエグ語は、今回インフォーマントとして協力いただいたスィンデ氏よれば、ニャンガトム (Nyangatom) 州の行政管理局がある中心地からオモ川流域に沿って 4 つの村で話されている。コウエグの中心地で行政管理局もあるクチュル (Kuchur) 村に約 400 人、それ以外にチャラカ (Chalaka) 村に 42 人、デーラ (Deera) 村に 48 人、そしてインフォーマントが暮らすガルギダ (Galgida) 村に 56 人、都合あわせて約 550 人の話者しかいない弱小言語である。村にはヤギや羊を若干所有しているものの、牛は所有しておらず、それ以外は獵犬が何頭がいるだけで、主にオモ川の魚漁やサバナナのイボイノシシなどの小動物の狩猟、蜂蜜の採集で、生活を営んでいる狩猟採集民族である。主食はエチオピアで「ガンフォ」と呼ばれる穀物粥で、それに蜂蜜をかけ、魚や動物は焼いて食べる。

ガルギダ村はニャンガトムの行政管理局から 15 キロ離れた所に二つの小さな集落として存在している。ニャンガトム周辺のオモ川には橋が全くないため、ニャンガトム自体も交通手段が限られており、常駐している車は行政機関が保有する 1 台のみで、あとはバイクが数台存在するだけである⁵。当然コウエグの村までの移動は徒歩に限られ、彼らは必要な時は約 2 時間かけてニャンガトムまでやってくることになる。村では日常的にコウエグ語で会話がされており、近隣の有力言語であるニャンガトム語 (ナイロト) やムルシ語 (スルマ)⁶ に囲まれながら、消滅することなく、現在も生き続けている⁷。彼らはコウエグ語以外にマーケットなどでやりとりをするためにニャンガトム語が少し話すことができるが、基本的にコウエ

ルギダ方言」と呼ぶことにする。なお今回のインフォーマントは母音間でわたり音/w/を入れる傾向にあり、彼の発音にしたがって本稿では言語名についてもコウエグ (Kowegu) 語と表記することにした。

⁵ 首都アジスアベバからニャンガトムの町まで車で行く場合は、通常のジンカ経由ではなく、ジンマ、ミザンタファリ経由で丸 3 日かけて悪路を通らないといけな

⁶ ニャンガトムの人口は Ethnologue 第 16 版によれば 14,200 人、ムルシの人口は 3,280 人である。エチオピア全体が現在人口急増中で、実際にはもう少し多いと考えられる。コウエグも Ethnologue 第 16 版では 450 人となっている。

⁷ 同じくニャンガトムから 8 キロ離れた所で暮らすムルレ (Murle) 語は、村としてはガルギダ村より遙かに大きな 300 人規模であるにもかかわらず、彼らの言語は目の不自由な老人一人を残して、すべてニャンガトム語へと言語交替している。

グ語のみの単一言語で暮らしている⁸。村の構成員の年齢層や男女比なども特に偏りがなく、村には子どもたちが 20 人以上暮らしており、単一言語生活をしていることを勘案すると、あくまで希望的観測ではあるが、将来的にも安定してコウエグ語がこのまま話し続けられるように思われる。一方、稗田 (1993) によれば、ニャンガトムから 42 キロ離れたクチュル村周辺では近隣有力言語カ口語 (南オモ : 人口 1,000 人) への言語交替が進行している一方、コウエグ語を話すコウエグもカ口語やニャンガトム語との多言語使用をする能力を身につけることで死滅することなく共存している。しかし筆者のインフォーマントはカ口語を全く知らないという。その代わりに、学校教育を受けているため、エチオピアの作業語であるアムハラ語を理解する⁹。オモ川を挟んでコウエグの村と反対側に、カ口の主だった 3 つの村が存在するが、コウエグのそれぞれの村との関わりには差があるようである。

2 調査方法

2011 年 2 月と 8 月に『アジア・アフリカ言語調査票 (下)』の A 語彙及び B 語彙の中にある名詞 (274 語) の語彙調査¹⁰と先行研究 (Hieda 1992) と比較しながら文法項目の調査をした。インフォーマントは調査当時 18 歳のスィンデ氏で、発音が明瞭で、母語であるコウエグ語の他に、ニャンガトム語及びアムハラ語が話せる。質問はアムハラ語で行った。2 月の初期調査結果は乾 (2011) で公刊したが、8 月の調査でその修正を行ったところ、新たな音素の発見及び単語の修正があった。また今回は弁別的と思われる

⁸ニャンガトム語に関しては、2011 年 8 月に初期調査として簡単な単語の調査と録音を行った。音素も単語もかなりコウエグ語と異なる言語である。調査した印象では、4 つの調音位置 (/m, n, j, ŋ/) を揃えた鼻音をかなり多用する言語で、Dimmendale (2007) によれば ATR によって母音調和もする。今後さらに調査を継続する予定であるが、今回はまだデータを提示できる段階ではない。

⁹これはエチオピア全土にわたって言えることで、作業語であるアムハラ語の勢力はどんどんと拡大している。地域有力言語はそれに飲み込まれる形でバイリンガルを余儀なくされ、弱小言語と同じように将来に関して安泰とは言えない。

¹⁰『言語調査票 2000 年版』としてウェブ上に公開されている東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の峰岸真琴氏作成の excel ファイルを利用した。峰岸 (2000) 参照。

アクセント表記も加えた。なお先行研究としてはクチュル村で調査した Hieda (1991) にかなり詳細な単語データがある。村による方言差や年齢差がどの程度あるのか不明であるが、今回の調査結果と異なる部分が見受けられる¹¹。必要に応じて言及するが、基本的には今回の調査結果を尊重して、ガルギダ方言として音素および単語を提示することにする。

3 音素目録

3.1 母音

Hieda (1992) によれば、コウエグ語の母音は他のスルマ諸語の 7 母音と異なり、5 母音で長短の区別がある。本稿の結果もそれと同じであった。なお先行研究には時々短母音が長母音で発音されることがあるとの記述があるが、本稿ではそれを観察して報告できる段階ではないので、聞き取ったとおりに記述している。

母音が頻繁に隣接して生じるのもこの言語の特徴である。/ie/, /ia/, /ei/, /ai/, /ae/, /au/, /ua/, /uo/, /ou/などが観察された。その解釈としては、二重母音か短母音の母音隣接かが考えられる。また、母音間にわたりとして/w/や/j/が入ることがあるが、その音環境の特定には至っていない。ただし形態音韻論的に母音が 3 つ続く場合は、声門閉鎖音/?/が間に入る¹²。

表 1: コウエグ語の母音体系

i	u	ii	uu
e	o	ee	oo
a		aa	

¹¹ 調査を開始したばかりの文法調査においても、先行研究と異なる特徴が見られる。

¹² “haʔaamba”の {ha-} が一人称接辞で「(私は) 食べる」の意。

3.2 子音

Hieda (1992) によれば、コウエグ語には 25 の子音がある。それに加えて /tʃ/ はカ口語からの借用語に現れる。また声門閉鎖音 /ʔ/ は母音間に現れるが、音素としての認定には至っていない。それに対して声門摩擦音 /h/ は語頭の位置でよく消失するが、音素として認定されている。関連して、3 人称複数の動詞語根の語頭に /g/ が付加されることがあるという。ただし、/h/ で始まる動詞語根には付加されない。

表 2: クチュル方言の子音目録 : Hieda (1992)

無声閉鎖音	p	t	tʃ	k	(ʔ)
有声閉鎖音	b	d	ɕ	g	
放出音		tʰ	tʃʰ	kʰ	
入破音	β	ɸ			
無声摩擦音		s	ʃ		h
有声摩擦音		z			
鼻音	m	n	ɲ	ŋ	
流音		r / l			
わたり音	w		j		

本稿で調査したガルギダ方言では、先行研究より 3 つ多い 28 の子音が観察された。閉鎖音から見ていくと、無声閉鎖音は /p, t, (ts), tʃ, k, ʔ/ で、声門閉鎖音は同じ 2 つの母音の隣接環境 (waʔatí, “oil” : 54¹³) だけでなく、異なる 2 つの母音の隣接環境 (haʔón, “where /anywhere” : 260)、3 つの母音の隣接環境 (haʔén, “how” : 256) でも観察され、また他の子音と母音の間 (marʔánen, “dumb” : 221) にも現れるので、音素として認定できると判断した。また /ts/ が単語としては 2 例観察された (núkuts, “mouthtache” : 16 と tsó bá, “seven” : 185) が、少なくとも後者はオモ系あるいはクシ系からの借

¹³ 数字は 4 節の語彙リストに付いている『アジア・アフリカ言語調査票 (下)』の語彙の番号である。以下同じである。

用¹⁴であり、本来の音素ではないと思われるので、()に入れた。/ɸ/は、先行研究ではカ口語からの借用語に現れるとされていたが、今回の調査ではコウエグ語として多数 (móófá, “chin”: 14、báatfa, “hen/fowls : 62、tjáátj, “snake”: 82 など) 観察された。有声閉鎖音は/b, d, ɕ, g/で、2月の初期調査で不鮮明であった/ɕ/が確かに破擦音であることを再確認した。なお、先行研究に記述がある/g/の形態音韻論的な出現については、まだ形態論の分析が十分できていないため、確認できていない。今後確かめることにしたい。喉頭気流機構の音素に関しては、先行研究に見られる/tʰ/が全く観察できず、放出音と入破音の間に調音位置における対立がなく、かつてヤコブソンが弁別特徴設定の際に喉頭気流音の弁別特徴を“Checked”一つで十分であると指摘したように、調音位置の前の位置で入破音、後ろの位置で放出音が現れる、きれいな相補分布が見られる。

次に摩擦音であるが、先行研究に記述がない音があることを確認した。今回調査したガルギダ方言話者の発音では、先行研究で/h/あるいは/k/で出てくる音素が軟口蓋摩擦音/x/あるいは口蓋垂摩擦音/χ/として現れる傾向がある。たとえば属格 (英語のいわゆる“of”に相当)を表す/ka/ (例: “got ka bai”「石の雨 = 雹」)は軟口蓋摩擦音/xa/で現れることが多い (例: “gongo xa moogu”「卵の殻」)。そしてそれは場合によってはさらに後ろの位置で調音される。たとえば動詞の完了相は、複数形になると完了相を表す形態素 {-ja}の後ろに無声口蓋垂摩擦音が加わり、{-jaχ}という形になる。したがって「好きである」という動詞“nafijji”は、“aan hanafijija”「私は好きだ」に対して、“uwou hanafijjajχ”「我々は好きだ」となる¹⁵。確かに先行研究で指摘されているように語頭の位置で/h/が消失する事実もあるが、一方で軟口蓋閉鎖音の摩擦音化による軟口蓋摩擦音の出現、語末の位置での口蓋垂の摩擦音の存在は、記述調査としてはっきりとその位置での摩擦が確認できただけでなく、インフォーマントはその音と他の無声摩擦音との違いを強く意識している。ガルギダ方言話者にとってこれらの摩擦音が弁別的であるとの認識を持つに至った。またさらに、口蓋垂の摩擦音は対応

¹⁴ オモ系バスケット語で“tabza”、クシ系オロモ語で“torba”である。

¹⁵ 語根に 1 人称接頭辞 {ha-} と単数接尾辞 {-i}、複数接尾辞 {-a} が付き、複数の場合母音隣接でわたりの/j/が挿入されている。

する有声音にも現れ (gae báe, “how much” : 191)、無声口蓋垂摩擦音の存在を体系的にも保証しているといえる。もちろんそのような音が存在するからといって、/x/および/χ/を/h/の自由変異音として処理することも可能である。しかし、たとえば/x/は語頭の位置で後続する母音が/i/の場合 (xiŋ, “this” : 249) だけでなく、後続する母音が/a/の場合にも/x/が現れて/h/と弁別される (hanta, “child” : 208 と xaʔáŋi, “female” : 225)。さらに語末の位置でもそれは弁別的である (artéx, “fish” : 89)。これらの事実を踏まえて本稿では摩擦音として 3 つ音素/x/, /χ/, /ʁ/を新たに加えることを提案する。

残った音素(鼻音、流音、半母音)に関しては、先行研究と同じ結果であった。ただし、/l/は特に語末の位置に現れた場合に注意が必要で、単子音の場合にはすぐに歯茎から舌先を離し、重子音の場合にはしばらく調音位置で舌先を止めておかなければならない (díl, “powder/flour” : 52 と sell, “nine” : 187)。なお、前述したとおり、インフォーマントは母音隣接の場合わたりとして/w/をよく挿入する。その音環境は十分確かめられていないが、先行研究の方言とは異なる結果である。

本稿で確認できた子音の音素目録を提示しておく。なお音声学的には異なる破擦音の系列を閉鎖音の系列に含めているのは、エチオピアの言語の喉頭気流機構の音素の振る舞いや音韻体系上の対立を考慮したからである。

3.3 アクセント

アクセントは高低アクセントで、平板、高低、低高、高低低、低高低、低低高が現れる。異なるアクセントは許容されないので、弁別的に機能しているものと思われる。音節数が増えてくると、平板タイプはずっと現れるけれども、現時点では低高高や高高低のように高が一部続くタイプは観察できなかった。なお低高高のように一単語内に二度高い位置が現れることは決してないので、単語アクセントが頂点表示機能を持つといえる。以下のアクセント表記は、高のみ記号を付与して、低には付与していないことを申し添える。

表 3: ガルギダ方言の子音目録

無声閉鎖音	p	t	(ts)	tʃ	k	ʔ
有声閉鎖音	b	d		ɟ	g	
放出音				tʃʰ	kʰ	
入破音	β	dʰ				
無声摩擦音		s		ʃ	x	χ h
有声摩擦音		z				ʁ
鼻音	m	n		ɲ	ŋ	
流音		r / l				
わたり音	w			j		

2 音節語

úté, “breast” : 13 (平板)

kárbo, “eye” : 5 (高低)

ʃubó, “head” : 1 (低高)

3 音節語

móógú, “egg” : 61 (平板)

mánik'e, “spit” : 12 (高低低)

podoró, “lip” : 10 (低低高)

koʃólgu, “elbow” : 29 (低高低)

母音が隣接する場合に、最初の母音と2番目以降の母音で高さが違う単語が観察され、それは下降だけでなく、上昇もある。それらを二重母音と解釈すべきか、短音の母音隣接と解釈すべきかに関しては、アクセントを考慮するなら後者の方が適切なように思われる。しかし長母音でも同じ現象があり、その場合長母音の解釈にも影響する。今後形態音韻論的な振る舞いを調査する中で、アクセントと母音隣接及び長母音の解釈を再度検討することになるであろう。

gíé, “wound” : 49 (平板)
 muólu, “shadow” : 161 (上昇あるいは低高)
 kíem, “one” : 179 (下降あるいは高低)

dáálí, “earth” : 146 (平板)
 boólu, “ash” : 150 (上昇あるいは低高)
 gúu, “fire” : 151 (下降あるいは高低)

先行研究と比較した場合、全く同じ単語で異なるアクセントタイプが確認できるので、方言差があるのか、それともアクセント自体どの程度弁別的に機能しているかは今後の課題である。

rúwa (Galgida) / rúá (Kuchur), “body” : 47
 podoró (Galgida) / pódoro (Kuchur), “lip” : 10

4 語彙リスト

語彙リストを挙げておく。インフォーマントへの質問はアムハラ語で行ったので、対訳は英語以外にアムハラ語も載せておく¹⁶。No は『アジア・アフリカ言語調査票 (下)』の A 語彙及び B 語彙の番号である。コウエグ語の音素表記は音声を再現しやすいように IPA に準拠した形で挙げている。コウエグ語はできる限り一例で表すようにしたが、特定が難しい場合は「/」で複数挙げている。その中には音交替の例も含まれる。なお、() で括った語は、アムハラ語からの借用語でコウエグ語自体にはない。また該当語彙がない場合は「 - 」と示した。一部の語に関して、必要に応じて脚注を加えているので参照されたい。

¹⁶アムハラ語表記は Leslau (1976) に準拠した。しかし放出音に関しては、文字の下にドットを打つのではなく、「・」を付けることで表した。ただしドットが元々使われていない軟口蓋放出音/k'/は、慣例に従って「q」で表記している。

No	English	Amharic	Kowegu
1	head	ras	jubó
2	hair	s'ägur	tj'iráaf
3	forehead	gənbər	máárí
4	eyebrow	qəndəb	dúom ka kárbo
5	eye	ayn	kárbo
6	tear	ənba	tj'írao
7	ear	ğoro	nábu
8	nose	afənč'a	čşúrúŋ
9	mouth	äf	tog
10	lip	känfär	podoró
11	tongue	məlas	káat
12	spit	məraq	mánik'e
13	tooth /teeth	t'ərs	nígí
14	chin	agäč'	móótfá
15	cheek	gunč'	báŋgá
16	moustache	riz	núkuts
17	face	fit	wótí
18	neck	angät	bólú
19	throat	guroro	k'óruŋ
20	shoulder	təkäšša	kapaná
21	back	ğärba	kútkút
22	waist	wägäb	ílókó
23	buttock	qit'	tadá
24	chest	därät	k'ák'om
25	breast	t'ut	uté
26	belly	hod	kijájŋ
27	navel	əmbərt	gungús
28	arm	kind	buwá
29	elbow	kərn	kojólgú

No	English	Amharic	Kowegu
30	hand	əǧǧ	buwá
31	finger	t'at	buwá ¹⁷
32	nail /fingernail /claw	t'əfər	ʃúk'am
33	leg /foot	əgər	ɕap
34	knee	gulbät	kúwam /buk'ó
35	liver	gubbät	nóxo
36	heart	ləbb	ʃan
37	guts	č'ägg ^w arra	kábuŋ ¹⁸
38	skin	qoda	katí
39	sweat /perspiration	lab	úsúmá
40	filth /grime /dirt	ədəf	dáxá/dáká
41	pus	mägəl	múɕugu
42	hair	s'ägur	tʃ'iráaf ¹⁹
43	fat /grease	mora	ʃága
44	blood	däm	níábú
45	bone	at'ənt	gítʃ'i
46	flesh	səga	áruŋ k'úla ²⁰
47	body	akal	rúwa
48	diseases /illness /sickness	həmäm	burk'í /démén ²¹
49	wound	qusəl	gíé
50	medicine	mädhanit	deefá
51	rice	ruz	(ruz)
52	powder /flour	duqet	díl

¹⁷指と手を区別しない。ただしそれぞれの指には、“buwa taf'i”「親指」、 “buwa lansa”「人差し指」、 “buwa makinsa”「中指」、 “buwa ojdisa”「薬指」、 “k'ambi”「小指」という言い方が存在し、人差し指から薬指までは数字の 2 から 4 で区別し、小指は「両親がいない」の意味となる。なおこの数字の 2 から 4 はオモ系からの借用である。

¹⁸“antit ka kijaj”は「腹の臓器」で内蔵一般の意。

¹⁹後ろに身体の部位を付けて区別する。

²⁰“k'ula”は「生の」で、「生の肉」の意。

²¹前者は病名、後者は病人の場合。

No	English	Amharic	Kowegu
53	salt	č'äw	sóok'o
54	oil	zäyət	waʔatí
55	liquor /wine	mät'ät'	mátinen
56	tobacco	təmbaho	dámbo
57	taste /flavor	mäqmäs	fámalk'
58	smell /scent /odour	šitta	náarijen ²²
59	food	məgəb	daʔáno
60	meat	səga	áruŋ íge ²³
61	egg	ənqulal	móógú
62	hen /fowls	đoro	báatʃa
63	bird	wäf	kúbar
64	wing	kənf	koolí
65	feather /plume	laba	sílé
66	nest	goğğo	tóʔó ka kúbar
67	beak /bill	mānqur	tog ka kúbar
68	horn	qänd	féi
69	beef /cow /bull	bäre /lam	bi ²⁴
70	knife /penknife	billawa	ébbel
71	sword	səlát	ébbel tátf'i
72	blade /edge	gorade	hatʃ'arí
73	pole /bar /stick	bättər	fárk'i
74	bow	dāgan	táaruŋ
75	arrow	qäst	fórgú
76	lance /spear	t'orr	par
77	thread	kərr	kíre
78	needle	märfe	(márfe)

²²さらに “maačən”が「くさいにおい」、 “gaamen”が「いいにおい」の使い分けがある。

²³“ige”は「料理の」の意。

²⁴雄牛 (ox/bull) は “bi čum”、雌牛 (cow) は、“bi aji”である。

No	English	Amharic	Kowegu
79	clothes /clothing	ləbs	ápala
80	paper	wäräqät	(warak'át)
81	thing	nägär	oké
82	snake	əbab	tʃáátʃ
83	worm /insect	təl	gíʃo
84	fly	zəmb	tʃ'útʃ'únté
85	mosquito	bimbi	mánkí
86	flea	qunəčč'a	túbo
87	louse	qəmal	k'ásá
88	ant	gundan	tʃ'ílo ²⁵
89	fish	asa	artéx
90	shellfish	-	- ²⁶
91	animal	ənsəsa	dabí
92	hunting	adän	admá
93	net	märäb	ɲépúútéí
94	dog	wəšša	kíeni
95	rope	gämäd	kája táʃʃí ²⁷
96	string	sibago	kája dʃíni ²⁸
97	sheep	bäg	mádir
98	horse	färäs	párdá
99	pig	asama	tʃópu
100	tail	ğərat	kúur
101	fur /wool	yawre tsägur	tʃ'irááfka dabí
102	fur	silliča	dápa
103	sack /bag	kärät'ət	láámá

²⁵ なお蟻の大小を問題にする場合は、“opo”「大きな蟻」、 “gulaaja”「小さな蟻」の違いがある。

²⁶ アムハラ語にもコウエグ語にも対応する語彙が存在しない。

²⁷ 「太い紐」の意。

²⁸ 「細い紐」の意。

No	English	Amharic	Kowegu
104	pan /pot	masäro	ḡu dííni ²⁹
105	kettle	mafəya	ḡu tátfí
106	jar	barmel	ḡu ka ójfo
107	jar /pot	ənsra	tó'ándá
108	roof	t'ara	faalá
109	wall	gərgədda	k'ótf'ur ka tó'o
110	window	mäskot	púlta
111	door	mäzgiya	apúk
112	house /home	bet	tó?o
113	vehicle /car	mäkina	káŋké
114	vessel /ship	märkäb	gági
115	well	yäwuha gudg ^w ad	hagín ka múa
116	business /job /work /task	səra	wáádímá
117	money	gänzäb	ántiti
117.1	change (N)	mäls	(mals)
118	tree	zaf	fáari
119	stem /trunk	gənd	túmá
120	branch	qərənč'af	antí
121	grass	sar	fútf'u
122	stalk	agäda	wolft'á
123	root	sər	kínei
124	leaf	qət'äl	k'ák'ten
125	flower /blossom	abäba	úúfímí /óla ³⁰
126	fruit /nut	fəre	kárbu
127	seed	zär	béntá
128	bark	lit'ač'	góŋgó

²⁹“ḡu ka akinen”で「料理の鍋」の意。

³⁰前者が「一つ一つの個別の花」、後者が「一般総称の花」の意。

No	English	Amharic	Kowegu
128.1	cover	šifan	góŋgó xa móógú ³¹
129	rice-field	irša	háámú
130	grove /copse /woods	č'akka	dúui
131	forest	dur	zéébrí
132	way /road	mängäd	gúwar
133	hole /pit	gudg ^w ad	óóló
134	bridge	dəldəy	(dildi)
135	river	wänz	dára
136	mountain	tārara	gáag
137	field	meda	bal
138	plain	meda	bal ³²
139	pond	kure	buúlú
140	lake	hayq	ɲapás
141	sea	bahər	(bahir)
142	island	däset	-
143	water	wuha	múa
144	ice	bärädo	(baradó)
145	stone	dəngay	bái
146	earth	märät	dáálí
147	sand	ašäwa	baí aišáíjī ³³
148	dust	təbbiya	bubuní
149	smoke	t'is	tʃ'úbbí
150	ash	amäd	boólu
151	fire	əsat	gúu
152	wind	näfas	púgu
152.1	breeze	läslassa näfas	púgu fúk'á

³¹ 「卵の殻」の意。“góŋgó xa fáari”で「木の皮」、 “góŋgó xa gíé”で「傷の皮」の意。

³² “kuupí bal”で「草のない平野」の意。

³³ “gailimi”は、「ぬれた砂」、 “ieʃ'i”は「砂山」の意。

No	English	Amharic	Kowegu
153	cloud	dämmäna	lúup
154	fog	gum	tʃ'iitʃ'ó
155	rain	zənab	got
156	snow	bärädo	got ka báí ³⁴
157	sky	sāmay	poolá
158	rainbow	qästä dämmäna	zífíllí
159	sun	s'āhay	fúúf
160	moon	č'äräqa	tígef
161	shadow	t'əla	muólu
162	star	kokäb	bíllí /eezín ³⁵
163	day	qän	fúú
164	daily /everyday	bäyəqānu	fúúf'ól
165	week	sammənt	fúú tsóba ³⁶
166	month	wär	tígef
167	year	amät	bon
168	morning	t'āwat	dāam
169	afternoon	käsä'at bäh ^w ala	makek'ái
170	evening	məššət	k'ái
171	night	lälit	míkir
172	yesterday	tənant	giagóŋ
173	tomorrow	nägä	dāámú
174	today	zare	fúúŋ
175	now	ahun	gáán
176	when	mäče	aamín
177	what time is it?	sənt sä'at nāw?	róóró gae bāe?
178	hour /time	sä'at	róóró

³⁴ 「石の雨」から「雹」の意。コウエグ語が話されている地域では雪は降らない。

³⁵ “biili”は「大きな星」、 “eezin”は「小さな星」で、大きくても小さくても星が集まっている(星座)場合は “wánif'ó”という。

³⁶ 週という概念はないので、「7日」という表現でしか表せない。

No	English	Amharic	Kowegu
179	one	and	kíem
180	two	hulätt	dáxá
181	three	sost	ḫien
182	four	arat	áhur
183	five	ammæst	tʃon
184	six	sæddæst	lax ³⁷
185	seven	säbbat	tsóba
186	eight	sæmmænt	loŋkái
187	nine	zät'aññ	sell
188	ten	assær	tómon
189	twenty	haya	lama tám
190	hundred	mäto	díḫ
191	how much	mæn yahəl	gae bæe
192	how many	sænt	gae bæe
193	half	gæmmaš	ḫoogí
194	altogether /all /whole	hullu	páila
195	some	andand	kíem kíem
196	number	qut'ær	kómnen
197	age	ædme	bon
198	(first) time	(and) gize	ḫáalen /kuunení (kíem)
199	husband	bal	úma
200	wife	mist	níáj
201	marriage	gabæčča	aʔájkau
202	father	abbat	júbun
203	mother	ænnat	ḫúwane
204	grandfather	ayat	káakine
205	grandmother	set ayat	ápin
206	son	wänd læḫ	hánta xa ḫúmu

³⁷1~5 と 10 はコウエグ語本来のものであるが、それ以外の 6 以上は、オモ系あるいはクシ系からの借用語である。

No	English	Amharic	Kowegu
207	daughter	set ləǧ	hánta xa ígafi
208	child	həs'an	hánta
209	young	gəlgäl	óótó
210	grandchild	yäləǧ ləǧ	bíízá
211	elder brother	tallaq	tʃ'íné táʃí
212	elder sister	əhət	tʃ'ín táʃí
213	younger brother	wändəmm	tʃ'íné dīíní
214	younger sister	tannaš	tʃ'ín dīíní
215	brother	wändəmm	tʃ'ine ³⁸
216	sister	əhət	tʃ'in
217	family	betä säb	ur guwajú ³⁹
218	friend /mate	guwadeñña	arijá /ba'idá
219	quarrel	t'əl / č'əqəčč'əq	luk
220	force /strength /power /might	hayl	kantá
221	dumb	dəda	toganekén /mar'ánen
222	deaf	dänqoro	lífó /nábu mar'ánen
223	blind	əwwər	kárbo mar'ánen
224	male	wänd	čúmu
225	female	set	xa'áñji
226	person /man /one	säw	ur
227	I (1st per. sg)	əne	áan
228	you (2nd per. sg)	antä/anči	íin /iyáj
229	he (3rd per. sg.)	ərsu	ij
230	she (3rd per. sg.)	ərswa	íjkí
231	we (1st per. dual incl)	əñña	úwou
232	you (2nd per. pl.)	ənnantä	íjo
232	you (2nd per. dual)	-	-

³⁸“keganj”は複数を表す。

³⁹「私たちの人」の意。

No	English	Amharic	Kowegu
233	they (3rd per. pl.)	ənnässu	gítae
234	they (3rd per. pl.)	-	-
235	oneself /self	rasu	naani ⁴⁰
236	else /other	yaläbäläzziya	ĩjk'á
237	who	man	hánnín
238	name /first name	səm	roŋ
239	name	səm	roŋ
240	letter	däbdabbe	(dabdabbe)
241	voice	qal	kíjaçça
242	sound	dəms'	wáen
243	language /speech	q ^w anq ^w a	tog
244	mind /heart	mastowal	k'áabien
245	god	əgzi' abəher	barijó
246	feast /festival	dəggəs	tóntóró
247	village	mändär/ säfär	bórok
248	town	kätäma	(katama)
249	this (one)	yəh	xiŋ
250	it	ya	iŋ
251	that (one)	ya	iŋ
252	which one	yätəññaw	na
253	what	mən	óon
254	why	lämən	nandaháo
255	these (ones)	ənnäzzih	gítáŋ
256	how	əndämən	ha'íen
257	here	əzzih	oŋ
258	there	bäzziya	ham
259	that place /over there	mado	ĩjkáam /ĩjka ham
260	where /anywhere	yät	ha'ón

⁴⁰所有形で表す。“naani”は「私の」の意。

No	English	Amharic	Kowegu
261	this way	bäzzih ga	ke táan
262	that way	bäzziya ga	ke bakún
263	away /that way	bäzziya ga	ke bakún
264	where	bäyetiññaw	ke na
265	place /location	bota	bakkí
266	left	gra	warkatá
267	right	qäññ	búon
268	front	filəfit	lémen
269	back	bəstā ġärba	kútkút
270	inside /inward /interior	wəst'	túoŋ
271	out /outside /exterior	wəč	suunúk
272	space	bota	bakúŋ
273	up	lay	dóójók
274	down	tačč	xirk

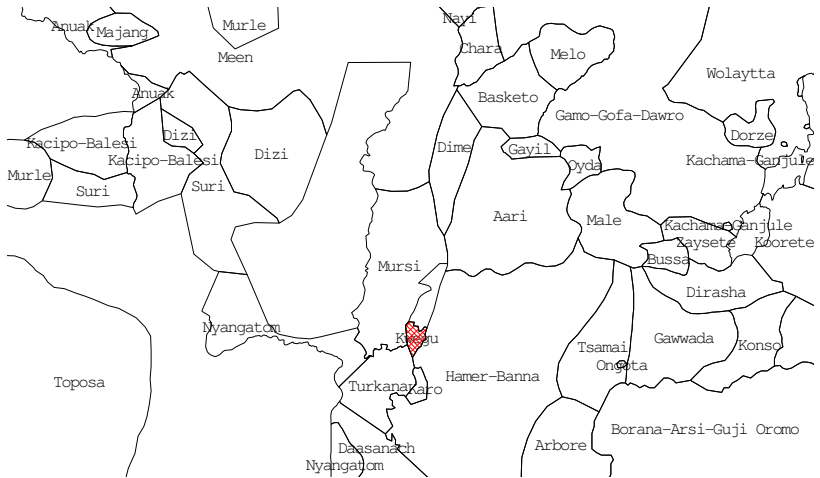


図 1: コウエグ語地域 (Ethnologue 第 16 版より)

【参考文献】

- Bender, M.L., J.D. Bowen, R.L. Cooper and C.A. Ferguson (eds.) (1976) *Language in Ethiopia*. London: Oxford University Press.
- Dimmendall, G.J. (2007) 'Nangatom language' 1131-1132. in Siegbert Uhlig (ed.) *Encyclopaedia Aethiopica, Vol 3*. Wiesbaden: Harrassowitz.
- Hieda, O. (1991) 'Koegu vocabulary, with a reference to Kara' (African Study Monographs, Suppl. 14), 1-70. *The Center for African Area Studies*. Kyoto: Kyoto University.
- Hieda, O. (1992) 'A grammatical sketch of the Koegu language', *Journal of Swahili and African Studies*, 3, 131-155.
- 稗田乃 (1993) 「コエグ語の人々の多言語使用について：民族間関係と言語」, 123-139. 『大阪外大スワヒリ&アフリカ研究』4. 大阪：大阪外国語大学.
- 乾秀行 (2011) 「コウエグ語の試験調査報告」, 69-89. *Cushitic-Omotc Studies 2010*. 山口：山口大学.

- Leslau, W. (1976) *Concise Amharic dictionary*. Wiesbaden: Otto Harrassowitz.
- Lewis, M.P. (2009) *Ethnologue: Languages of the world, sixteenth edition*. Dallas: SIL International. Online version: <http://www.ethnologue.com/>
- 峰岸真琴 (2000) http://www.aa.tufs.ac.jp/~mmine/kiki_gen/query/aaquery-1.htm
- 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 (編)(1979) 『アジア・アフリカ言語調査票 (下)』東京：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.

The phoneme inventory of the Galgida dialect of Kowegu

Hideyuki INUI

The purpose of this paper is to clarify the phoneme inventory of Kowegu, a language spoken in the area along the Omo river in the South Western part of Ethiopia. The Kowegu belongs to the south-east Surma group within the Surmic languages in the Nilo-Saharan phylum and is a very small language numbering about 550 individuals.

The vocabulary list used by this paper is based on the Linguistic questionnaire for Asia and Africa published by Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA).

The Galgida dialect of Kowegu has 10 vowels and 28 consonants. There is a contrast between long and short vowels. There are four series of stops – voiceless plosives, voiced plosives, ejectives, and implosives. The Galgida dialect is different from the Kuchur dialect in that there are velar and uvular fricatives. The phoneme inventory is as follows.

Vowels:

/i, e, a, o, u/

/ii, ee, aa, oo, uu/

Consonants:

Stops: /p, t, (ts), tʃ, k, ʔ/

/b, d, ɖ, g/

/tʃ', k'/

/ʙ, d/

Fricatives: /s, ʃ, x, χ, h/

/z, ʒ/

Nasals: /m, n, ɲ, ŋ/

Liquids: /r, l/

Glides: /w, j/

Faculty of Humanities

Yamaguchi University

1677-1 Yoshida, Yamaguchi, Yamaguchi 753-8540, Japan

E-mail: inui@yamaguchi-u.ac.jp